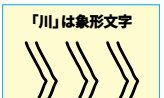
［川ってなあに？ その ］ 知っておきたい、川の基礎知識

「なるほど！　そうだったのか…川について知っておきたいこと、いくつかチェックしてみよう！

「川」と「河」は、どうちがうの？

そう、「かわ」を漢字であらわすと、「川」という字と、「河」という字の２種類があるね。それから、かわのことを、「河川」ともいう。「川」と「河」は、どうちがうんだろう？

「川」は象形文字



両がわの２本の線が川岸で、まんなかの線が水の流れをあらわしているといわれています。

まず「川」という字は、水が流れるさまをあらわした文字なんだ（このように、すがたかたちをあらわした文字を象形文字という。ほとんどが古い時代の中国でうまれた）。

だから（水が流れていれば）小さい「かわ」も大きい「かわ」も「川」といっていいんじゃないかな。上流のほそい流れは、「沢」というよび方もあるけどね。つぎに「河」というのは、もともと、中国の「黄河」という大きな川を意味する文字だったんだ。

ずっとむかしの中国では「河」といえば、「黄河」のことだった。それが、いまのように「黄河」という名前がつけられるようになってからは、「河」はただ「大きな川」を意味するようになったんだ。ちょっとむずかしいことばでいうと、「固有名詞から普通名詞になった」ということだね。

その２つの文字が、中国から日本にやってきた（漢字が日本に伝えられたのは、だいたい２０００年前くらいとされている）。

いまでは、「川」と「河」のどこがちがうか、とくにこれというきまりはない。ただ、「川」よりも「河」のほうが、なんとなくスケールの大きさを感じさせる。「上流の河は…」という書き方は、あまり見かけない。「河」は、ひろくて、ゆったりと流れるイメージ。さらに、「大河」といえば、中国・アメリカ・ヨーロッパなどの大陸を流れる大きな川にぴったりだ。

だから、「河川」というのは、「川」と「河」をあわせて、小さい「かわ」も大きい「かわ」も、それよりずっと大きい「川」も、ぜんぶひっくるめたことば、ということができるね。

川の両岸、どっちが右岸、左岸？

川の両方の岸を、「右岸」または「左岸」という。つまり、川の岸にも、「右」と「左」があるというわけだ。じゃ、どっちが右岸で、どっちが左岸なんだろう？

これは、とてもまちがいやすい。おとうさんやおかあさんにも聞いてみて！

正解は…、川の流れてゆく方向を見て、つまり、上流から下流にむかってみて、右がわを右岸、左がわを左岸というんだ。

わかりやすいようと、上流から下流に流れる「水になった気持ち」で考えればいいということだね！

ところが、世界には、この右岸と左岸をさかさまにいう人たちもいる。

たとえば、ある北の国で、川をのぼってくるサケをつかまえて生活している人たち。その人たちは、下流から上流を見て、右を右岸、左を左岸というんだって。

その人たちにとって、サケというさかなは、とてもたいせつな食べものなんだ。だから、川の岸のよび方についても、「水の気持ち」ではなく、「サケの気持ち」になって考えた（？）ということなのかもしれないね。

［ここで、モンダイ！］

●赤城山は、利根川の右岸、左岸、どちらにあるかな？（みんなで考えてみて）

どこまで上流？　どこから下流？

いま、右岸と左岸の話のなかで「上流」と「下流」という言い方がでてきたね。

たぶん、みんなも、川について、なにげなく「上流・中流・下流」という言い方をしているかもしれない。

でも、川って、どこまでが上流で、どのあたりが中流で、どこからが下流なんだろうか…。そんなふうに考えたこと、ないかな？

このモンダイは、とてもむずかしい。はっきりと、川のここまでが上流、ここからが中流…と、線をひけるわけではない。それに、それぞれの川によって、ひとつひとつ、地形や流れのようすがちがう。

ただ、つぎのように、川の上流・中流・下流について、その「めやす」を考えることはできるかもしれない。

上流

山の中や、山あいの谷を流れている。
川はばがせまく、あさい。水の量も少ない。
かたむきが急で、流れがはやい。
だいたい、水がすんでいて、きれい。
角ばった大きな石が、ごろごろしている。

中流

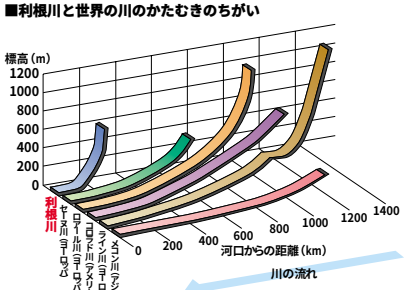
山からすこしひらけた、やや平らになったところからの流れ。
だんだん、川はばがひろがり、ふかくなる。水の量も多くなる。
流れがゆるやかになり、蛇行（クネクネと曲がること）がみられるようになる。
石はだんだん小さく、しだいに小石になる。

下流

かたむきが少なくなり、ひろびろとした平野に出て、海などにそそぐまで。
いっそうひろく、ふかくなり、川ぜんたいが大きくなる。
石はさらに小さくなり、砂がふえてくる。

と、まあ、こんなところだけど、日本の川についていうと、アメリカやヨーロッパなどの大きな川とちがって、「中流」の部分が少なくて、山から海へ一気にそそぎこむ、という感じなんだ。

えっ、ホント？　という人は、次の図を見てほしい。ねっ！　どれだけ日本の川の「かたむき」が強いか、よおくわかるでしょっ！　ほかの国の川とくらべると、「滝」のようだね。

だから、日本の川は、大雨がふると、一気に川の水がふえて「洪水」になり、雨がふらないと、すぐ水が少なくなってしまう、という特ちょうがあるんだ。

■利根川と世界の川のかたむきのちがい